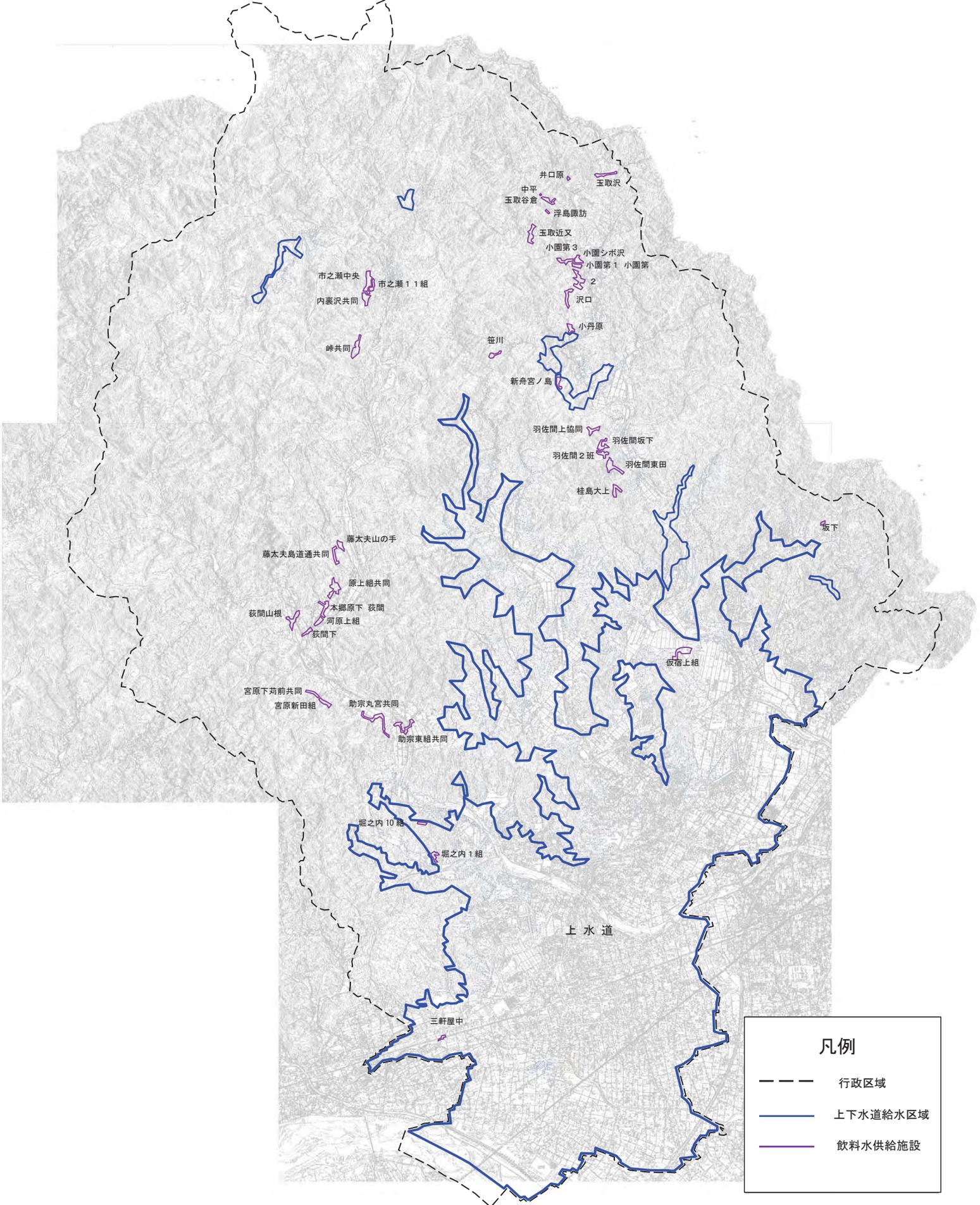


飲料水供給施設給水区域図

9月定例月議会「一般質問」配布資料② 『藤枝市水道事業年報（令和3年度版）』



凡例	
---	行政区域
—	上下水道給水区域
—	飲料水供給施設

小規模水道 A(民営)
〈市内 38 箇所あり〉

藤枝市水道事業に登録されている
「飲料水供給施設(給水人口 100 人以下)」の3つの事例



表流水



【①峠共同・(給水戸数7戸)】

●瀬戸川支流の松葉沢から表流水を大径パイプで引き、沢沿いの平坦地に貯水・配水場がある。ここから峠地区の家庭に送水されるが、表流水利用のため大雨時は濁りが生じるようだ。各家庭では水量・水圧確保のため受水槽を設け、ポンプで給水している。なお、沢奥の施設は土砂災害リスクが高いうえ、通年での保守管理は、高齢化著しい住民の大きな負担になっている。(塩素消毒装置なし)



井戸ポンプ



【②市之瀬・中央(給水戸数30戸)】

●瀬戸川支流の内裏沢の堰堤内にポンプ小屋がある。ここから山の中腹の貯水場に送水され自然流加方式で各家庭に配水される。堰堤の地下水を利用するが、土砂災害リスクは極めて高い。保守管理のための作業道がなく危険な場所にある。また、家の標高差により水圧が変わるため不満もあるという。(塩素消毒装置なし)





【③本郷・荻間山根(給水戸数18戸)】

●水田やビニールハウスが展開する県道沿いにポンプ小屋がある。ここから山手にある各家庭に送水される。瀬戸川の伏流水を浅井戸(10m)で汲み上げているため年3~4回の水質検査は欠かせない。(塩素消毒装置あり)

●この5年間、配管の老朽化、モーター、タンク交換などの機器の取り換えがあり、1戸当たり、年平均で51,000円かかっているという。これに対し藤枝市上水道は、年平均で33,522円と戸別負担に格差がある。

小規模水道B(民営)

藤枝市水道事業適用外の「飲用水供給施設(無登録)」の2つの事例



【①滝沢・6組(給水戸数14戸)】

●滝沢川の伏流水を利用している。市道を跨いだ民家の裏にポンプ小屋(井戸深さ5m程度)がある。ここから各家庭に送水されているが設置後50年以上も経っており送水管の通り道も分からないという。また、漏水が懸念されており、電気代の増嵩やポンプ作動音に悩まされているようだ。さらに、給水戸数の割に小型の井戸ポンプを利用しているため、水量・水圧不足もあるという。(塩素消毒装置なし)



●数年前にポンプは交換したが、送水管の老朽化と漏水が懸念され更新工事の必要に迫られているが、市道を跨ぐことや管路が不明なこと、資金不足などの課題が山積しているという。

【②滝沢・12組(給水戸数5戸)】

●滝沢川の伏流水を利用している。市道を跨いだ空き地に井戸ポンプ(深さ5m程度)がある。ここから山の中腹にある家庭に送水されているが、遠距離の家庭では中継の貯水槽を設け、さらにポンプ送水している。加入戸数が少ないため維持管理費の負担などの課題が多いという。

●同組の古民家に、この夏移住が決まった30代のご夫婦には、家の改修時にこの井戸の利用をすすめる予定であるが、配管や水質検査等の支援助成をして欲しい。(塩素消毒装置なし)



小規模水道C
(個人または3戸以下)

藤枝市水道事業適用外の
「飲料水供給施設(無登録)」の6つの事例

井戸ポンプ



- ①【滝沢】釜ヶ沢にあるが温暖化の影響か、地下水が枯渇したため滝沢川沿いの共同ポンプに入る。
- ②【小園】朝比奈川沿いの井戸ポンプ。合併浄化槽の排水口もあちこちに付き、水質が心配である。
- ③【滝沢】川の護岸上に井戸ポンプがある。近年は河床低下とともに地下水位も下がりエア抜きなどの保守に苦勞されている。
- ④【市之瀬】瀬戸川沿いにあるが、水量・水圧確保ため貯水タンク上の2台目ポンプで送水している。(いずれも塩素消毒装置なし)



- ⑤【滝沢】川の護岸上に3つの井戸ポンプが並ぶ。井戸は岩盤があり深く打ち込めず、川が濁れば影響もでるため、飲料水はウォーターサーバー契約している家庭が多い。
- ⑥【寺島】山手にある数戸の家で共同設置した給水施設。(いずれも塩素消毒装置なし)